アジア学院 学校案内

農村指導者研修プログラム

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

ようこそ、唯一無二の学び舎へ。

アジア農村指導者養成専門学校は、「アジア学院」または英語名「Asian Rural Institute（ARI）」として知られ、50 年の歴史を有する国際人材育成機関です。創立当初より「開発途上国の農村が発展的に自立するためには、地元のリーダーをトレーニングすることが最善である」という信念のもとに、研修の全てが構築されてきました。そのため、その内容は今日でも他に類を見ないユニークなものです。全寮制で、毎年約 15 カ国から集まる学生とボランティア、そしてスタッフたちと共にキャンパスで生活をし、授業も生活も英語で行う日本で唯一の専修学校（栃木県認可）です。 6 ヘクタールの広大なキャンパスは有機農場と学校林に囲まれ、豊かな自然の恵みによって可能になる農業と生活がアジア学院特有の教育を支えています。多様性に富む学院の存在を可能にする鍵は「共に生きるために」というモットーです。この学校案内ではアジア学院の研修に参加することに関心のある方に向け、アジア学院の教育の魅力をあますことなくご紹介します。

目 次

農村指導者とは？ 4
多文化共生コミュニティ 6
　アジア学院の多様性 8
農的な暮らし 10
　キャンパス 12
　アジア学院の一日 14
アジア学院の背景 15
農村指導者研修プログラム 16
　カリキュラム 18
　9 ヶ月間の集中研修 20
　卒業後のプログラム 21
　経験豊富な講師陣 21
持続可能な未来をつくる卒業生たち 22
応募方法 26
アジア学院概要 27

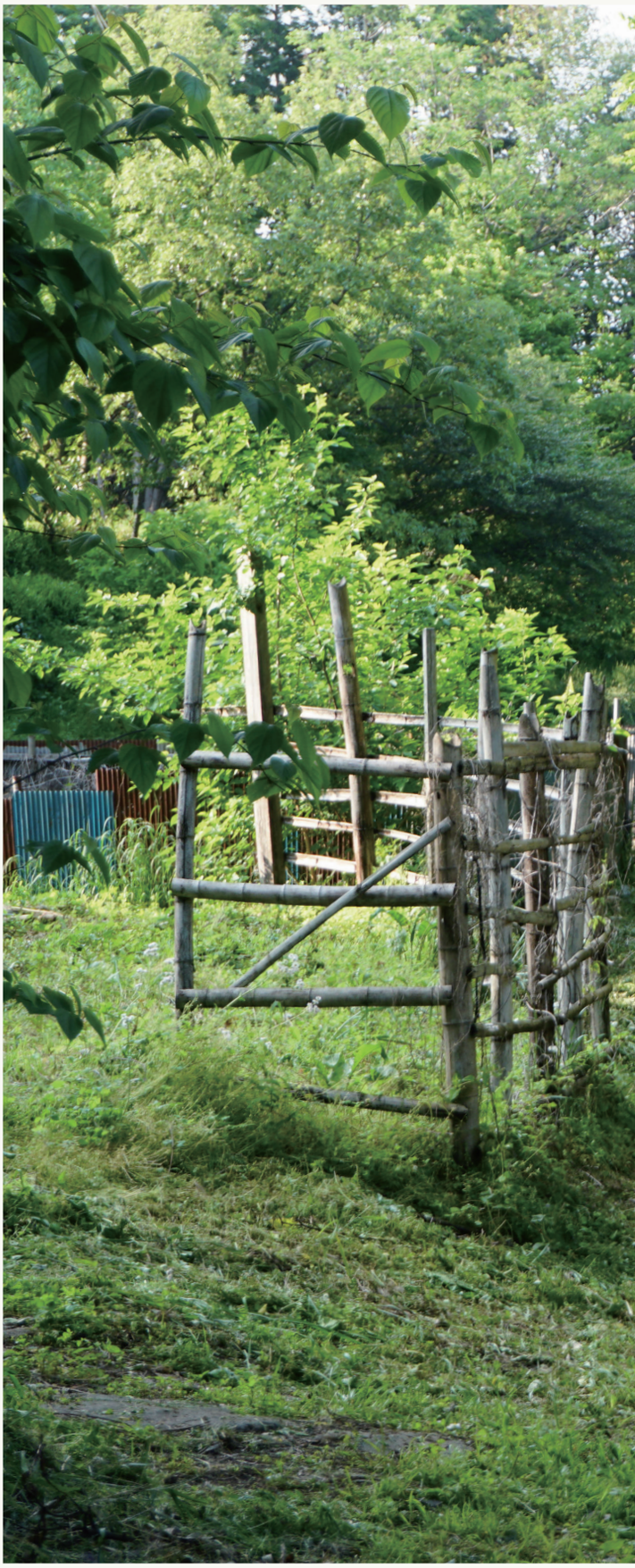
日本人がアジア学院で学ぶ意義

アジア学院で、強い目的意識を持って奉仕的に働く開発途上国の人々と生活を共にし学ぶ機会は、国際協力の分野で働く希望を持つ人、地域社会がよりよいコミュニティとなることを望む人だけでなく、自己の内面を成長させ社会貢献したいと考える日本人にとってまたとない有意義な経験となります。

アジア学院は、アジア、アフリカ、太平洋諸国等の農村地域から、その土地に根を張り、その土地の人々と共に働く「草の根の農村指導者（Rural　Leader）」を学生として招き、国籍、宗教、民族、習慣、価値観等の違いを認めつつ、公正で平和な社会実現のために、実践的な学びを行っています。

アジア学院のいう「農村」とは場所を意味するのではなく、そこで暮らす人々、目を向けられていない資源、文化、生き方などを指しています。「指導者」とは高い地位にある者、人々を従え命令する者ではなく、人々のために働き、その立場に立ち、共に考え、共に生きる人のことを指しています。つまり農村指導者とは、地域に根差し、その土地の資源や環境に十分配慮しながら、人々の生活改善や地域の課題解決のために奉仕するリーダーのことです。

こうした世界の「農村指導者」たちと、初めて「農村」を経験する日本人が共に学ぶことで、新たな目で農村を考え、その価値と強さ、もろさ、尊厳を知り、発見していくことが可能になります。その上で、どんな発展、開発、そして生き方を目指すのかを皆で考えていきます。日本人学生は、自国の文化や生活習慣、あるいは社会や地域の課題など様々な話題において、積極的に自分の考えや体験を共有し、他国の学生と相互理解に努めることが求められます。



Multicultural & Communal Life

多文化共生コミュニティ

初めてアジア学院を訪れた人々が最初に驚くのは、キャンパスで生活する人々の多様性です。アジア学院では、毎年約15ヵ国30名の学生と約15名の国内外のボランティアを受け入れ、約25名の職員と共に小さなコミュニティを形成しています。

英語を共通語として、文化や宗教の違いを尊重しつつ、豊かで平和な未来を目指して、共に学び、生活をする。授業も農業も生活も、全てを研修と捉え、日々の生活から学び合うコミュニティ。この環境の中で学ぶ価値は計り知れません。

アジア学院の多様性

ウガンダ

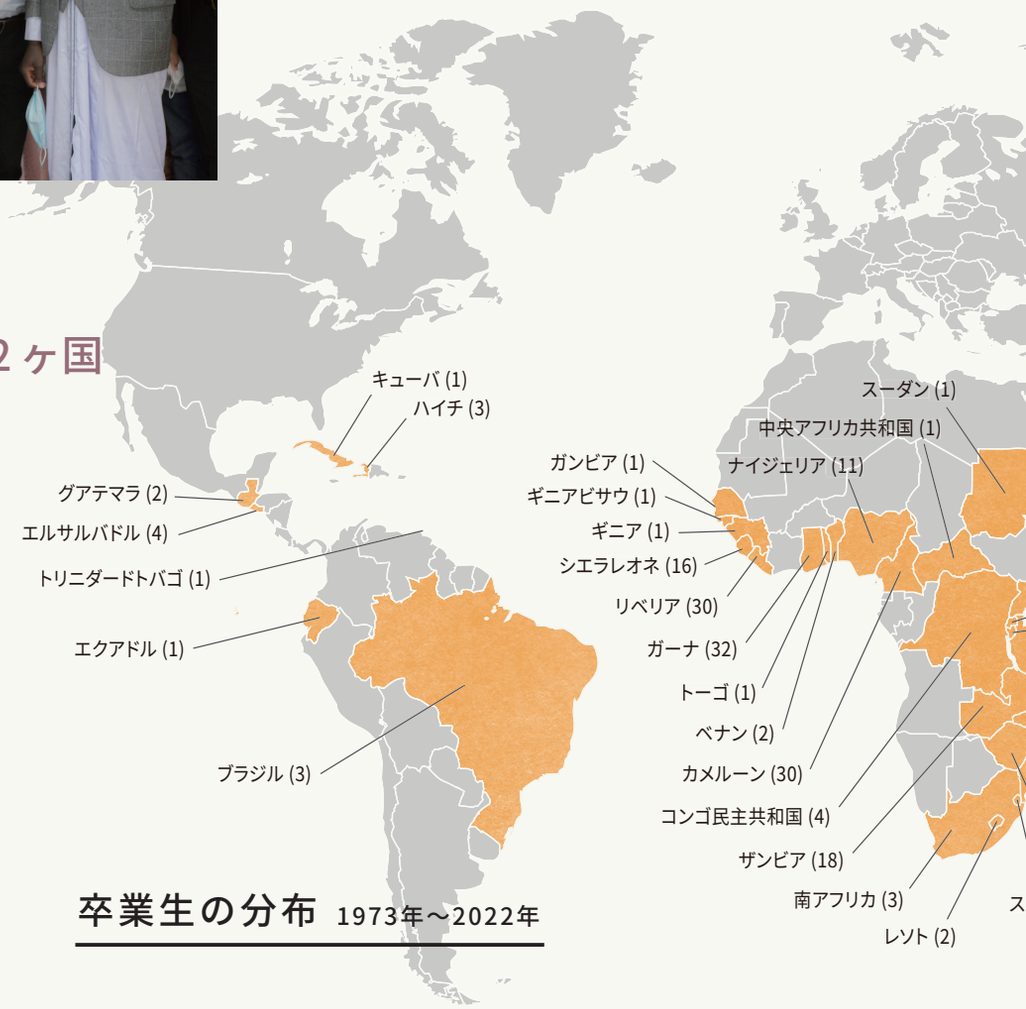
ティモティ・センタム

2022 年卒
青年プロジェクト代表

私はウガンダの社会問題の解決に情熱を注いでいます。若者を農業に引き入れることと、若者と女性に向けた有機農業の訓練に力を入れています。思春期の少女たちに月経衛生教育や技能向上のための訓練も行っています。アジア学院では、有機農業、サーバントリーダーシップ、コミュニティ開発の知識を学びました。

入学生は世界から
卒業生の出身国は累計62ヶ国

アジア学院に入学する人たちの背景は様々です。国籍、信仰する宗教、職業や活動分野も実に多種多様です。共通しているのは、誰もが「この世界をよくしたい」「地域に貢献したい」など高い志を持っているということです。違いを尊重しつつ、お互いに刺激しあい、高めあえる場。それがアジア学院です。

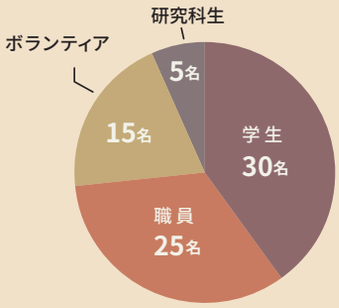


卒業生の分布 1973年～2022年

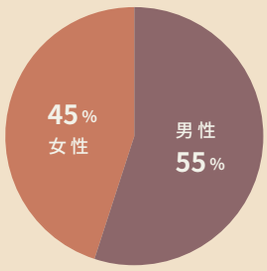
データで見るアジア学院コミュニティの多様性

（2022 年度の学生、ボランティア、職員のデータに基づき作成）

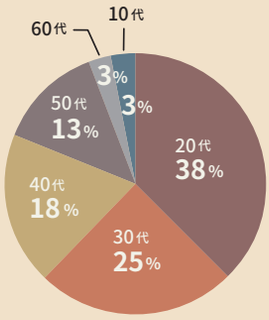
海外からの学生の母国での活動分野は、農業、教育、福祉、紛争解決、保健衛生関係など様々です。
政府や大企業に勤める人々ではなく、草の根で課題解決に取り組む人々です。



学院の構成（平均）



男女比率



年齢比率

インド

ンガムシェル・ロングロ

2022 年卒
コミュニティ調整員、指導員

科学的な方法での作物栽培、ヒラタケ栽培、養鶏のワークショップの研修をしています。また、緊急救援活動の補佐役も担っています。アジア学院では、有機農業を主流化し、農民の生活水準を持続的に向上させる方法を学び、良き指導者となり、自給自足の技術を身につけたいと考え
入学しました。

日 本

阿部 真希子

2017 年卒、2018 年研究科生
元看護師

私は看護師として働いていました。しかし高度医療技術に依存する状況に疑問を抱くようになり、退職後デンマークで、世界の飢餓・貧困・格差について勉強しました。アジア学院では人々の健康と命を良い食べ物を通して支援する方法を学びました。

日 本

中島 のぞみ

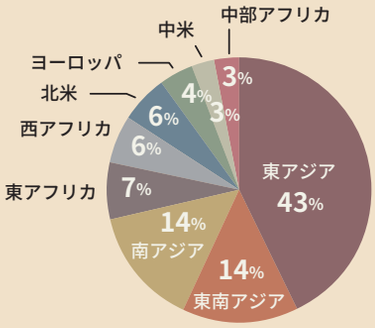
2022 年卒、2023 年研究科生

高校卒業後に留学を予定していましたが、アジア学院での短期滞在を経験し、違いを受け入れ合う環境に魅力を感じました。多様な国籍、価値観、宗教の人々と「共に生きる」ことで生き方のヒントを得ながら、自分にできることは何かを考えていきたいと思い、アジア学院に入学しました。

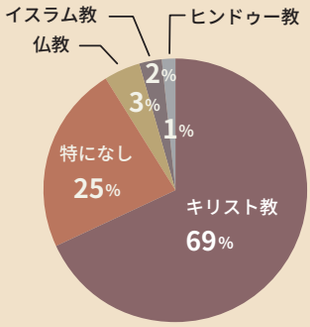
※無国籍の難民１人を含む

月に１回、楽しいコミュニティイベントがあります。

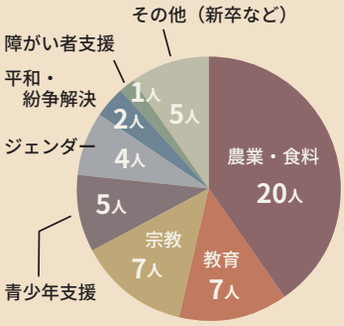
少人数制（定員 32 名）
日本人 定員５名



国籍



信仰する宗教



入学者の活動分野
（複数回答あり）

学生の定員は毎年32名、内日本人の定員はわずか5名の少人数制です。日本人の応募に経歴による制限はありません。「農村地域社会の向上に奉仕する」ことに強い関心のある方を求めています。
（応募方法についてはP.26）

Agricultural Life

農的な暮らし

アジア学院を特徴づけるもう一つの魅力は、
自給自足をベースにした農的な生活です。
私たちの生活にとって食べものは不可欠です。
開発途上国の貧困問題を解決するためにも
まずは食料の確保が欠かせません。

アジア学院では、
開発途上国の農村地域でも応用できるよう、
ハイテクや高価な肥料に頼らない
もみ殻や落ち葉などの地域資源を有効活用した
有機農業を指導・実践しています。

食べものを育てることを
授業だけでなく生活の一部として大切にし、
自然と調和する暮らしの中で自活力を高め、
他者の自立を支援できるリーダーになることを
奨励しています。

キャンパス

アジア学院は栃木県那須塩原市に位置する、森林や畑に囲まれた丘の上の小さな学校です。
教育の場として 50 年にわたり、学生たちの自己成長と変革を支えてきました。
「学校」というだけではなく、約 60 人からなるコミュニティの人々の住む「生活空間」でもあるキャンパス。持続可能な生活を保つようにデザインされ、授業だけではなく、
共に農作業や食事をし、生活を分かち合う場所です。

コミュニティの中心

コイノニア（食堂棟）

私たちの生活の中心であり、わかちあいの場所です。ここで私たちは食べものをいただき、感謝し、歌い、絆を深めるのです。

教室棟

教室の他、図書室や会議室があります。

マナハウス（食品加工棟）

販売用の製品作り、コーヒー焙煎を行います。一階には家禽類のと殺場があります。

オイコスチャペル

築120年の古民家を移築したものです。祈りや「朝の集い」にも使われます。

約95%
食料自給率

農作物	ニワトリ	ブタ	ヤギ
60種以上	約400羽	約70頭	約10頭

農場

私たちの毎日の食を生産するだけでなく、農業とリーダーシップの実践の場所でもあります。

ファームショップ（農業研修棟）

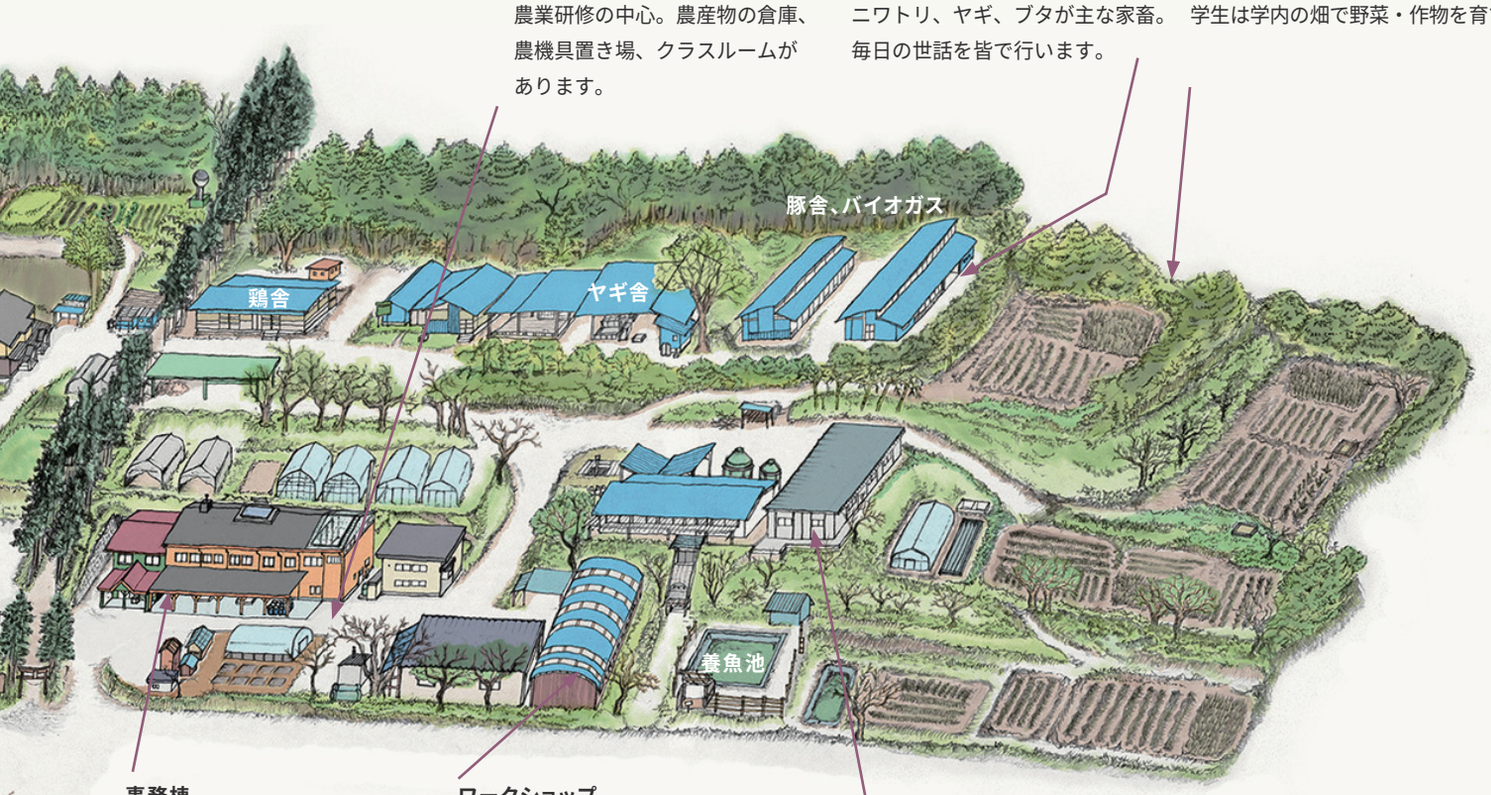
農業研修の中心。農産物の倉庫、農機具置き場、クラスルームがあります。

畜産部

ニワトリ、ヤギ、ブタが主な家畜。毎日の世話を皆で行います。

実習畑

学生は学内の畑で野菜・作物を育てます。



事務棟

事務所があり、職員やボランティアが働いています。

ワークショップ

必要に応じて機材や道具を自分たちで作ったり修理したりします。

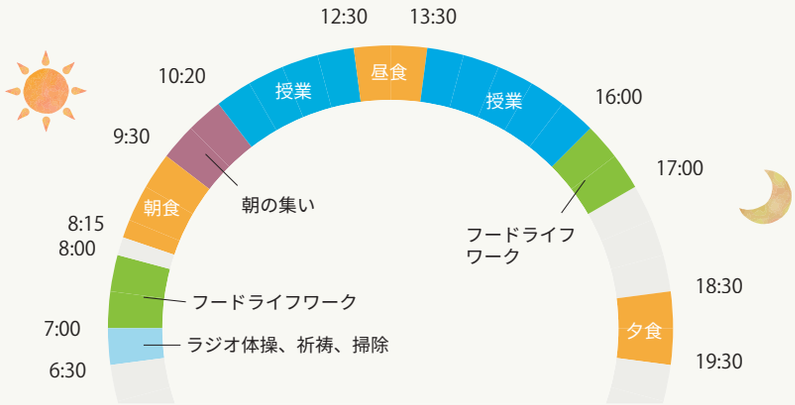
ミキシングルーム（飼料庫）

家畜の飼料を作る場所です。

寮　男子寮と女子寮に分かれて生活します。各寮には、シャワー、共有のコミュニティルーム、小キッチンがあります。一つの部屋を二人でシェアし、ルームメートは自分とは違う国の人になります。

アジア学院の一日

朝から夜まで、アジア学院の一日は学びと経験にあふれています。
週末は、畜産と給食の当番の他、レクリエーション、ワークショップ、礼拝など、さまざまなアクティビティに参加できます。



コミュニティでの生活と労働は、学生がリーダーとして成長していくための大切な時間となっています。

全寮制

生活と一体化された学びの機会

朝の活動
アジア学院での一日は朝早くから始まります。全員がグラウンドに集合し、ラジオ体操とお祈りの後、キャンパスの清掃を行います。

フードライフワーク
私たちのいのちを支える食べものに関連する全ての働き（田畑の管理、家畜の世話、調理）のことです。朝と夕方に分担しながら皆で行います。

朝の集い（モーニング・ギャザリング）
精神的・信仰的な振り返りのために皆で集まるこの時間は、一日の中で最も大切な時の一つです。コミュニティメンバーが日替わりで自らの経験や考えを語ります。

共に食事する
コイノニアの食堂に集まって皆で食卓を囲みます。自分たちで育てた肉や野菜を調理したオーガニックでヘルシーな食事です。学生とボランティアが調理に加わるので、料理も多国籍です。

寮生活
学生とボランティアは寮（男子寮、女子寮）に住みます。様々な年齢、異なる文化や宗教をもつ人々と共に暮らすことは、教室では学べない貴重な経験となるでしょう。

授業
午前と午後にある授業時間は教室での座学だけではなく、農場での実習や農作業、学外での見学研修もあります。授業はすべて英語で行われます。

Historical Background
アジア学院の背景

（写真上）アジア学院旧本館
（写真下）創設者髙見敏弘（前列左から３番目）と学生たち

アジア学院の成り立ち

アジア学院の前身は 1960 年に農村伝道神学校（東京都町田市）に設置された「東南アジア科」でした。第二次世界大戦において日本の諸教会が戦争協力に加担したことに対する贖罪の意を込めて、東南アジア諸国の諸問題を解決に導く農村指導者育成を目的に開設されました。

1973年、東南アジア科が農村伝道神学校から独立し栃木県旧西那須野町（現那須塩原市）に学校法人アジア学院アジア農村指導者養成専門学校が開校。１期生は６カ国16名（内日本人６名）。地元の方々の献身的な功労によって取得した６ヘクタールの土地に、本館、プレハブ２建ての農作業棟、４棟の職員住宅からのスタートでした。

技術者を開発途上国の現地に派遣するのではなく、地元リーダーを日本で育成するという「支援」のあり方と共同生活をベースとした有機農業の実践によるリーダーシップ養成という研修内容は、世界的にも革新的なものでした。

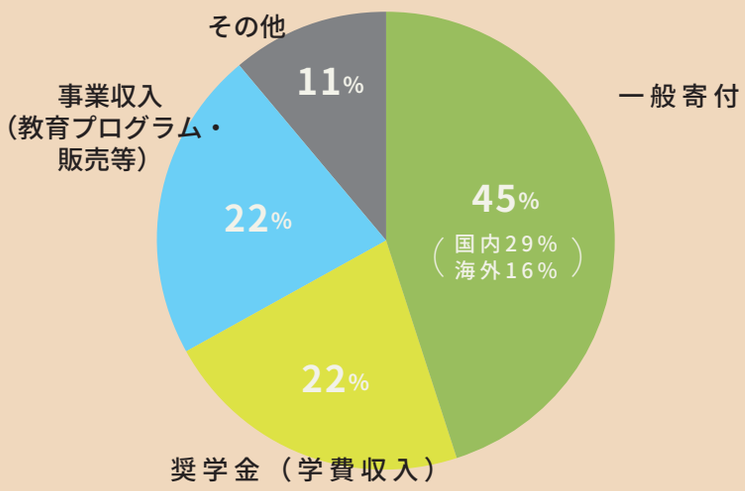
アジア学院の建学の精神はキリスト教に根ざしています。しかし、キャンパスには、宗派や民族の垣根を超えて様々な人々が集まっています。

ユニークな運営

開発途上国からアジア学院に招かれる学生たちの経済状況は厳しく、彼らがアジア学院の学費を捻出することは非常に困難です。そのため、学院では設立当初より学生の学費と渡航費をほぼ全額負担しています。この運営費の多くは、一般の人々や企業、教会などの寄付金によって支えられています。

また、アジア学院の特殊な教育環境は、教育機関や JICA などの研修施設としても広く活用されており、特に夏期は国内外から様々な人々が訪れます。これらの教育プログラム収入も学院の運営を支える重要な収入源となっています。

アジア学院の収入の内訳



アジア学院の運営は主に一般の人々の
善意ある寄付によって支えられています

Rural Leaders Training Program
農村指導者研修プログラム

アジア学院のカリキュラムは非常にユニークです。
独自の教育理念に基づき、
「サーバントリーダーシップ」
「フードライフ」
「学びのコミュニティ」という
３つの柱によって構成されています。

これらのコンセプトが、
教室での座学だけではなく、
農場での作業、共同体生活、学内イベントなど、
あらゆる場面に緻密に組み込まれ、
9ヶ月という短期間で農村指導者としての
素養が習得できるようデザインされています。

このホリスティックな学びが、
個々人のリーダーシップ能力を引き出し、
持続可能な開発と平和への気づきをもたらします。

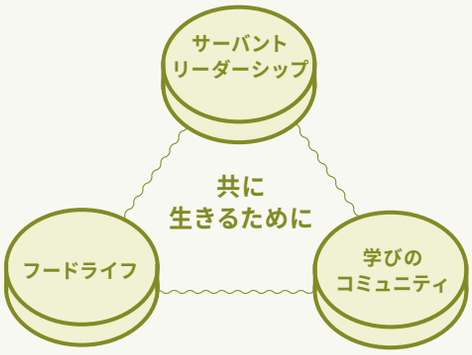
THE WAY OF KEI
Appropriate Technology
LOBE
Time Out
Tokyo
NEWS
CP-19

カリキュラム

農村指導者、あるいは地域や人々に貢献しようとする奉仕型リーダーになるためには、他者を変えようとする態度をあらため、まずは自らが自己変容のプロセスを熟知していなければなりません。

学生は、座学と実践、学外見学研修、共同生活によって、知識だけでは身につかない、体験から得る確かな技術と深い洞察により、リーダーとして大きく変容していきます。

研修によって、サーバントリーダーシップ、フードライフ、学びのコミュニティという３つのコンセプトへの理解を深め、学院のモットー「共に生きるために」を体現するような農村指導者になることを目指します。



人々に仕える奉仕型リーダーになる

サーバント・リーダーシップ

人々と共に、人々のために働くリーダーは、１人で決断を下す「トップダウン型」ではなく、むしろメンバーの意見を汲み、周りの状況に配慮したリーダーであるべきであり、そのようなリーダーシップが育つことで、持続可能な社会が実現していくと私たちは考えています。
学生たちは研修を通して、自己認識、人を大切にする力なども身に着け、リーダーとしての倫理や姿勢を形成していきます。

【主なカリキュラム】

- アジア学院の指導者論
- サーバント・リーダーシップ
- アジア学院の歴史と建学の精神
- 参加型学習行動法（PLA）
- プレゼンテーション技術
- ファシリテーション技術
- 宗教と農村生活
- 報告書作成指導
- リーダーシップ技術（傾聴、非暴力コミュニケーションなど）
- 平和と紛争解決

【関連する実践・活動】

- 農場管理におけるリーダーシップの実践
- 学内イベントの企画運営
- 共同生活における気づかいや振る舞い

自然と調和し自活力を養う

フードライフ

アジア学院の農場は60種類以上の野菜・作物と数種類の家畜を育てています。開発途上国の貧しい農村でも導入しやすく応用できる農業、なおかつ人と環境に優しい有機農業を実践・指導しています。学生たちは自然との調和を重んじるフードライフの学習と実践を通して、健康的で豊かな食生活を含む持続可能な農業に対する理解を深め、コミュニティを自立へ導く方法を学びます。

【主なカリキュラム】

野菜・作物概論
畜産概論
作物病害虫管理
畜産病害虫管理
栄養と開発
化学農業の危険性
熱帯における自然農業
アグロフォレストリー
生産者と消費者の提携
バイオガス
有機農業実習（ボカシ肥、堆肥、土着菌、もみ殻くん炭など）
家畜飼育（ニワトリ、ヤギ、ブタ）

【関連する実践・活動】

学院農場における自給的生活
国内各地の有機農家の見学研修

違いを尊重し平和な共同体を作る

学びのコミュニティ

様々な国から集まった人々が言葉や文化の壁を乗り越え、本当の意味での「コミュニケーション能力」を身に着けていきます。多様性に満ちた共同生活を通して、コミュニティの調和と平和を維持することの難しさや素晴らしさを体験し、その方法を発見、会得することで、内面的、精神的にも成長し、やがて平和のリーダーへと変容していきます。

【主なカリキュラム】

ジェンダー論
グループディスカッション
リフレクション（内省や自己認識・発見）
コンサルテーション（担当職員との定期面談）

【関連する実践・活動】

共同体生活
寮生活
コミュニティ形成のための活動
朝の集い（月～金 毎朝）
「収穫感謝の日」（10月）

総履修時間
1760時間

9ヶ月間の集中研修

アジア学院の研修プログラムは短期間集中型です。
一般の専門学校の２年分のカリキュラムを
９ヶ月間で履修できるよう設計されているからです。
夏休みのような長期の休みもありません。
駆け抜けていくような日々の中で学生は大きく成長します。

研修期間
4月～12月
9ヶ月間

イベントカレンダー

4月

入学式、オリエンテーション、有機農業集中実習

5月

プレゼンテーション①、田植え

6月

見学研修（埼玉県小川町）、特別講義（自然農業、尊厳など）

7月

参加型学習行動法（PLA）、夏期個人研修

8月

農村地域研修旅行（栃木県、東北地方）、
プレゼンテーション②

9月

稲刈り、卒業生セミナー

10月

収穫感謝の日（HTC）

11月

西日本研修旅行（広島、水俣など）

12月

最終プレゼンテーション、卒業式

卒業後のプログラム

アジアインターンシップ

アジアインターンシップ・プログラムでは、9ヶ月間の研修を終えた日本人学生が、それぞれの関心や将来の目標に合わせてインターン先を選びます。フィリピン、インド、インドネシアなどの卒業生の団体が受け入れ先となり、約50日間インターンとして活動し、日本では学ぶことのできない実地経験を積むことができます。（行き先によって費用が変わります。）

卒業生インターン（GI）

日本人卒業生は、卒業の次年度に研究科の卒業生インターン（GI）に応募する資格を持ちます。卒業生インターンはアジア学院に1年間（4月～3月）滞在し、特定の一分野に焦点を当てて、その分野のより深い理解と幅広い経験を培います。さらに他の構成メンバーや学生生たちの先輩として、生活のあらゆる場面において重要な役割を担います。

経験豊富な講師陣

学院には豊富な国際経験を持つ教職員が多く在籍し、情熱と使命感を持って教鞭を執っています。
また分野に応じて、専門知識を持つ教育者や実践者を招き、特別講義やワークショップも数多く行っています。

主な教員

荒川 朋子

校長

リーダーシップ、参加型学習行動法（PLA）などを担当。教育、リーダーシップ、ジェンダー関連の指導において25年以上の実績を持つ。

大柳 由紀子

副校長

青年海外協力隊や、20年にわたるアジア学院での経験とともに、有機農業の知識や実績も有している。ローカルリーダーシップ研修、プレゼンテーション技術などを担当。

荒川 治

副校長

タンザニア、ネパール、東ティモールなどで農業指導員等で活動経験がある。アジア学院における有機農業の概念を熱く学生たちに伝えている。

ティモティ・B・アパウ

宗教主事

ガーナの農村牧師として教会活動に携わる傍ら、抗マラリアキャンペーンに従事。アジア学院では養鶏、時間管理、宗教に関するクラスを担当。2001年度アジア学院卒業生。

櫻井 将伸

農場長

タイを中心とした東南アジアで、20年にわたって有機農業指導に携わった経験をもつ。アジア学院では、農場長として農作業に携わりながら、学生の有機農業実習を担当している。

阿部・チャタジー・マノシ

教務主任

国連大学大学院で持続可能な社会について研究し、特に日本の貧困問題や食料主権について学ぶ。学院ではリーダーシップに関する様々なスキルや、日本の貧困問題に関する授業を担当している。

Graduates Making Sustainable Futures

持続可能な未来をつくる卒業生

新たな知識、価値観、技術を得た卒業生たちは、人々の平和で豊かな生活のために、幅広い分野で活動しています。
開発途上国の卒業生たちはコミュニティに戻り、アジア学院で得た経験を団体や地域に還元することが求められます。

日本人卒業生の多くは、国際協力、地域おこし、農業、教育、福祉などの分野で活躍しています。
活動分野は違えど、卒業生たちは皆、同じ持続可能な未来のために働いています。

日 本

子供たちに田舎暮らしの良さをシェア

小山 萌愛　2009 年卒、2010 年研究科生

現在、私は三重県伊賀市の中山間地で、夫と共に農業を基盤に暮らしています。人口200人未満、65歳以上が半数以上の地域で、人口減少に伴い、日本の他の農村にも見られるようないろいろな課題がありますが、地域の人や自然に支えられながら、楽しく暮らしています。私も夫も大阪のベッドタウンで生まれ育ちました。私はアジア学院で有機農業とリーダーシップの経験を得て、夫は全国の様々な農家を回り、それぞれこの三重の地に流れ着きました。

1.3haの田畑を管理するほか、地元の人たちと一緒に、都会に暮らす親子が参加できる農作業イベントを企画・運営しています。アジア学院では、ビジターを受け入れる時には、わかりやすい説明を心掛け、休憩のタイミングを考え、全体の雰囲気を見るのは当たり前のことでした。今思うと、そこから多くの経験を得ていたことに気付きます。様々な方との交流や受け入れをしていて、アジア学院での経験が、とても活かされていると実感しています。

インドネシア

自然と共生する農場を

石田 賢吾　2012 年卒

アジア学院卒業後、同期で研究科生だったフェニーと結婚し、インドネシアの北スマトラに住んでいます。私たちは今、フードフォレストを取り入れた、自然と共生・共存する循環型の農場を造っています。フードフォレストとは、果実などの食糧を調達できる森のことです。私たちはさらに、農場で収穫した農産物を自営の小さいホームレストランで提供しています。自給自足、持続可能な暮らしが、私たちの目標です。

私達が造りたいのはエデンの園のような果実やナッツでいっぱいの森です。木から実が成りだせば、少なくとも数百年は収穫できます。フードフォレストはいくつかの階層で形成され、一番上の層がジャックフルーツやアボカド、その少し下にグアバやマウンテンアップル、その下にコーヒーの木や山椒、レモンなどがあり、全部で30～40種類以上の多様な樹木や果実やスパイスの木があります。多種多様な植物が森に安定をもたらしてくれています。今後は、薬効がある木や植物を植え、自家製のスパ（エステ）を作りたいです。アジア学院での経験が、次々と新しいアイディアを生み出す起爆剤になっています。

シエラレオネ

見えないものを見る

マンブッド・ケスティン・サマイ　2018 年卒

シエラレオネで行われたありふれたサッカーの試合。巧みなボールさばきにパス回し、ゴールを決めて喜ぶ選手。ただ選手たちには片足が、ゴールキーパーには片腕がありません。シエラレオネの11年にわたる内戦では、手足を失った人が多くいます。マンブッドは牧師としての仕事のかたわら、政府や国連が作った「切断者キャンプ」を訪れ、人々の苦しみを聞き、下肢切断者スポーツ協会（SLASA）を設立しました。やがてサッカーを通して、人々は笑顔と自信を取り戻していきました。

アジア学院卒業後、マンブッドは学院で学んだ有機農業による健康な食料の生産と、下肢切断者の生活を結びつける方法を模索して、「フットボール・ガーデン」を作りました。これはSLASAの持つ郊外の広大な土地を使い、サッカー場と自分や家族を養う野菜畑を組み合わせたプロジェクトです。

足を失った人を見て、「かわいそう」と失ったものに対して同情する人もいるでしょう。しかしマンブッドは、その人の持っているもう片方の足と強い心を見て、一緒にできることを探します。農村リーダーは、他の人が見えないものを見ることができるのです。

ミャンマー

声なき人々の声となって

ノウ・リー・ミャー　1998 年卒、2007 年研究科生

「リーという名前は、光という意味なの。この名前は祖父にもらった宝物よ」と、彼女は言います。1998年にアジア学院を卒業したノウ・リー・ミャーは、キリスト教会組織の女性部のリーダーとして、コミュニティに影響を与える諸問題に長年取り組み続け、克服してきました。女性と子どもたちの権利や教育、健康、人身売買に関する啓蒙活動を行ってきたミャーは、その発想や行動また、励ましによって、コミュニティの「光」の源となりました。

ミャーの穏やかな態度の背後には、信仰に根ざしたコミュニティへの強い思いがあります。彼女の発案で、毎日女性たちが一握りの米を持ち寄り、それを資金として建設した2階建ての建物は、今では縫製、食品加工、手工芸品などの収入創出プログラムを実施するための公共の集会所となっています。ミャーは、アジア学院の研修で、声なき人々の声となるために必要な組織化、管理、リーダーシップのスキルが得られたと述べています。

応募方法

日本人学生

将来、開発途上国または日本の農村地域社会の向上に奉仕することに関心のある人（20 歳～ 50 歳）が応募可能で、国際的な経験、高い英語能力、農業経験は必須条件ではありません。面接を経て、選考が行われます。上限5名。

海外の学生

送り出し団体の審査・選考に始まり、個人選考へと進みます。同じ国の卒業生に現地で面接をしてもらうこともあります。毎年、約 70 ～ 100 名の応募者から 30 名ほどの候補者が選ばれます。

研修費及び生活費

農村指導者研修プログラム

国内研修　9ヶ月間（4月～12月）

＊2023 年現在。変更の可能性があります。

入学金	80,000 円
授業料	700,000 円
実験実習費	260,000 円
寮費（原則2人部屋）	270,000 円
食費（1日3食、但し日曜日の昼食を除く）	270,000 円

合計 1, 580,000 円

アジア・インターンシップ・プログラム

国外研修　50日間

プログラム費	150,000 円
海外渡航費	実費
宿泊・食費	実費

＊当学院独自の奨学金制度はありません。

応募と選考方法

ホームページ上から必要書類をダウンロードし、必要事項を記入の上、アジア学院学生選考課まで郵送してください。

入学検定料……10,000 円（銀行振込）

書類選考の後、面接を行います。

面接の日程は書類選考に合格した方に直接お知らせいたします。また面接の際、英語による面接があります。

郵送先

学校法人アジア学院　学生選考課　宛

〒 329-2703
栃木県那須塩原市槻沢 442-1

入学願書受付期間

10 月～ 2 月

詳しくはホームページをご覧下さい。
ari.ac.jp

＊アジア学院を一度も訪問されたことがない場合、まず訪問や滞在をお勧めします。

よくある質問

アジア学院は農業学校ですか？

アジア学院は、何よりもまずリーダーシップを養う学校です。農村指導者を養成するために、学習の方法の一環として有機農業を用いています。

キリスト教徒ではありませんが、入学できますか？

入学できます。学生はキリスト教徒が多いですが、アジア学院には様々な信仰を持つ学生や無宗教の学生もいます。あらゆる信仰や背景を持った人々を歓迎し、他の信仰を尊重するコミュニティを目指しています。

アジア学院は日本基督教団の関係校ですが、教派を超えた超教派のキリスト教機関でもあります。学生は、研修中にキリスト教の礼拝や式典に出席することが期待されています。

障がいがあります。それでも研修に参加できますか？

学生は、集団生活、農作業、クラスへの時間通りの出席、中・長期の研修旅行に適応する必要があります。入学は応募者との話し合いのもと慎重に検討されます。

英語はあまりうまくないのですが、それでも研修に参加できますか？

応募資格を満たしていれば、英語力は選考基準ではありません。ただしアジア学院の研修はすべて英語で行われますので、研修開始前に一定レベル（英検2級またはTOEIC600点程度）英語能力の習得をお勧めします。

英語力のスキルや流暢さよりもまず積極的にコミュニケーションをとる姿勢が大切です。

研修中はどこに住むのですか？

すべての学生は寮に住み、出身国の異なる学生と相部屋となります。トイレ・シャワー室は共同で、ベッド、寝具、洗濯機、アイロンなどは備えられています。Wi-fi は寮にはありません。

研修中にアルバイトはできますか？

できません。研修と共同生活に集中していただくこととなります。

学位を取得できますか？

１年未満という短期研修ですので学位は取得できません。卒業時に修了証明書を発行します。

長期の国内研修旅行に追加料金はかかりますか？

かかりません。すべて研修費に含まれています。

アジア学院概要（2024年3月現在）

所在地	栃木県那須塩原市槻沢 442-1
理事長	山本 俊正
副理事長	門脇 英晴
校長	荒川 朋子
副校長	大柳 由紀子
副校長	荒川 治
事務局長	佐久間 郁・ヴェロ

沿革

1973　準学校法人アジア学院設立、栃木県より「東南アジア農村指導者養成所」開設の許認可
1978　「アジア農村指導者養成専門学校」に名称変更
1995　フィリピン、ネグロス島にトレーニングセンターを開設（2003 終了）
2011　東日本大震災により被災（2015年まで震災復興プロジェクトを実施）
2012　放射能市民測定所アジア学院ベクレルセンター開設
2014　卒業生調査実施（12ヶ国229名を訪問）
2023　50 周年を迎える

受賞歴

1988　外務大臣賞
1989　第5回国際交流基金 地域交流賞
1996　マグサイサイ国際理解賞 (髙見敏弘受賞)
1998　栃木県経済同友会 社会貢献活動特別賞
2001　第 13 回毎日国際交流賞
2006　第 5 回井植記念アジア太平洋文化賞
2009　朝日社会福祉賞
2019　テキサスキリスト教大学グローバルイノベーター賞
2019　第 12 回かめのり賞人材育成部門受賞
2019　日本 UNESCO ESD 賞日本代表ノミネート

表紙絵：Walker T. Orner

アジア学院の使命と目的

アジア学院の使命は、イエス・キリストの愛に基づき
個々人が自己の潜在能力を最大限に発揮できるような
健全な環境で公正且つ平和な世界を構築することにあります

この使命の実践に当たって、私たちは
共に分かち合う生き方を目指して
農村指導者の養成と訓練を行っています。
主としてアジア、アフリカ、太平洋地域の農村共同体に生き
働いている男女の指導者たちが
毎年職員やアジア学院に集うその他の人々と共に
学びの共同体を形成します

この共同体に根ざした学びを通して
私たちは農村の人々が地域で自分たちの持っている
地域資源や能力を共通の目的のために分かち合い
活用する最善の方法を見出してゆくのです

アジア学院は食べものといのちについての独自のアプローチによって
我々自身と全世界に問いかけを続けていきます
「共に生きるために」

学校法人 アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校

〒329-2703
栃木県那須塩原市
槻沢442-1

info@ari.ac.jp
0287-36-3111（電話）
ari.ac.jp